

国立大学法人大分大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性を身に付け、知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、大学入学時から教育課程へのスムーズな接続を可能とする高大接続教育事業の展開、起業家精神の涵養と産業界で活躍できる人材を育成するための教育に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 光熱水量について、平成 23 年度使用実績を下回ることを目標に、部局ごとに削減計画を定めるとともに、課・室ごとの夏季一斉休業の実施、リアルタイムな電力使用量の監視等の取組を行った結果、電気、水道、重油の使用量がそれぞれ 2.0 %、2.1 %、1.2 %削減している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 九州北部豪雨災害に際し、学生ボランティアを正課外の社会貢献活動として位置付けて派遣(56名)し、教員の帯同、移動手段の支援等を行っている。

平成24年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 高大接続教育の取組として、高校、大分県教育委員会、民間企業との連携の下で、入学時から大学の教育課程へのスムーズな接続を可能とし、学生の学問に関する探究心と基礎的能力を高めるため、平成24年度は「学びは高きに流れる」仕組みの展開に取り組んでおり、新たに全学高大接続実施委員会を組織するとともに、「学問探検ゼミ」(高校生19名参加)、「キャンパス大使」(学生42名派遣)、「キャンパスレポーター」

- (高校生2名参加)、「チャレンジ講座」(延べ2,036名受講)等の事業を実施している。
- ベンチャー精神に富んだ人材を育成する目的で、学生による「ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」を開催し、同コンテストにおける最優秀作品2件についてプレゼンテーション技術の向上等を図った結果、九州大会「第12回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」においてグランプリ及び九州経済産業局長賞を受賞し、うち1件は「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」においてテクノロジー部門大賞(文部科学大臣賞)も受賞している。
 - 大分県や企業等と連携して進めてきた電磁力応用技術開発を発展させ、次世代モーター等の新製品・新技術開発に取り組むため、共同研究講座「次世代電磁力応用技術開発講座」を平成25年度に設置することを決定している。
 - 地域における様々な取組をさらに繋ぎ、「教育の協働」を県内に広げるため、大分大学が立ち上げた「大分県『協育』ネットワーク協議会」に9団体の新規加入があり、「協育見本市」、「実践交流会」等の活動を積極的に開催している。
 - 「とよのまなびコンソーシアムおおいた」において、連携授業「大分の人と学問」を e-learning 形式で開講し、県内の5教育機関より66名の受講生を受け入れるとともに、県内8高等教育機関合同の連携講座「豊の国学」を実施するなど、大分県の教育レベルの向上に取り組んでいる。
 - 「留学生交流拠点整備事業」において、大分県の多文化共生の街づくりの推進に寄与するため、県下の留学生支援に係る窓口のワンストップサービス化や留学生の県内企業への就職支援、留学生と日本人学生の交流の場の創出や県内での留学生と地域住民の交流の充実、留学生による地域提言等の事業を実施している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 神経内科や総合診療部等の複数診療科が共同で PET-CT を利用した臨床研究を開始したほか、日本、中国、韓国の4施設による国際共同臨床試験を本学臨床薬理センターで開始するなど、多様な臨床研究を推進している。

(診療面)

- 先進医療の承認に向けた症例の確保に努めた結果、「神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法」(先進医療 B)、「難治性眼疾患に対する羊膜移植術」(先進医療 A)及び「蛍光膀胱鏡を用いた5-アミノレブリン酸溶解液の経口投与又は経尿道投与による膀胱がんの光学的診断 筋層非浸潤性膀胱がん」(先進医療 B)の3件について、先進医療の承認を受けている。

(運営面)

- 大分県との連携により、ドクターヘリの運航を開始し半年で229件の患者搬送を行うなど、県内の救急医療体制の充実に貢献している。